

2011年度 社団法人 札幌青年会議所

7月「誇りある心育成」例会

日 時：2011年 7月19日（火）
18：30～20：34

場 所：札幌サンプラザコンサートホール

講 演 録

第2部 金美齡氏講演

金 美 齡 氏

皆さんこんばんは。札幌青年会議所はセンスが良い。さっきのプレゼンテーション、短い時間の間で日本の歴史の勉強をさせていただきました。そして、ピアノの演奏があり、私の大好きな「夏の思い出」を素晴らしいソプラノで聞かせていただきました。実は、6月の初めに札幌J.Cのメンバーが、わざわざ大阪まで来て打ち合わせをしてくれたのです。大阪の中央公会堂という古い建物があります。赤れんがの素晴らしい建物、そこで講演をしまして、終わった後にはるばる札幌からやってきた若者に質問されたのです。何でこの人達私に沢山質問するのかと思ったのですが、実はこの演出の為だったのですね。札幌に来るのに「夏の思い出」は尾瀬です。何の関係も無いと思ったのですが、実は私たち家族、子どもたちと一緒に、子どもが小さい頃、よく一緒に歌った歌なのです。テラスがに出て、新宿病院が良く見える、とっても開かれたテラスなのですが、そこへ出て、家族全員でこの歌を良く歌ったのですね。だから、好きな歌と聞かれた時に、好きな歌と言うと沢山あるのですけど、これから夏に向かい、札幌にも行くので「夏の思い出」と答えたのですけど、こういう風な演出をして下さると思ってもいませんでしたので、舞台の袖からとても嬉しく聞いていました。

また、札幌青年会議所の若者たちとは、去年寒い時期の上川で、旭川から50分くらい車で行った小さな町で講演した時に、札幌青年会議所の方がお見えになったのです。そこで、終了後にサイン会がありまして、本も何冊も買っていただき、最後まで待って下さり、そこで「札幌から来ました」って言ったのです。遠いのですよね、旭川から40～50分入ったところですから、それをわざわざ札幌から来て下さったという若者に対して、私いきなり言ったのです。「札幌へ行きたい」って。札幌大好きなのです。自分で来ようと思って来られないわけじゃないのですけど、なんかきっかけがあると行きやすいし、もう2～3年来てないので、自分からリクエストしたという感じになりました。今日の運びとなりました。

私は実は嵐を呼ぶ女なのです。石原裕次郎が「嵐を呼ぶ男」という素晴らしい映画を作って日本中の人気者ですが、私は自称、嵐を呼ぶ女なのです。様々な意味で嵐を呼びます。今日皆さんは北海道にいます。札幌にいますと何にも感じないかもしれないけれど、実は東京ではいつ台風が来るかと、大騒ぎだったのです。それで、今日もちゃんと飛行機が飛ぶかどうか、つまりこうやって皆さんが、お出かけ下さる事が決まっています。飛行機が飛ばなかったらどうなるか、いくらなんでも札幌遠すぎるから泳いでは行けない。色々心配したのですけど、札幌青年会議所の方の行いが良いのだと思います。無事、羽田から時間通りに到着しました。羽田に行きますと西に行く便、四国に行く便、九州に行く便、キャンセルされているものがいっぱいあったのです。広島から、九州の方から高松であるとか全部キャンセルなのです。実は先週、私は四国や広島、熊本に行ったのですが、全部今日キャンセルされた便に乗っているのです。ところが今日、久しぶりの北海道ですよ。久しぶりの北海道で無事飛んで本当によかったと思います。でも、なんか動こうと思ったら台風が来る状態の中で、来てみると札幌は晴れ、素晴らしいお天気、皆さんも今日のこのプレゼンテーションでご覧になったと思うのですけど、日本は大きな国です。広い国です。もう全然違うのです。天候が、台風で大変なところもあれば、東京はなんとか羽田が、こっちに来る便は全部、つまり羽田が大丈夫だった、私もパラパラと雨が降ってきたり風が吹いてきたりするけれど全部窓をきちんと閉めて、さてどうしようかと。何を悩んだかという、帽子をかぶって行くべきかどうか悩みました。東京からだと言っているし、片一方は嵐なのに、私が帽子をかぶって出ていくと変な感じだなと思ったけど、でもひょっとしたらこっちは快晴で、しかも私は明日熊本行かなくちゃならないのです。結局、向こうが万が一晴れていて、数日私は九州だとか、そこらへんで動き回るのに帽子が無いと困る。それで帽子を持ってきました。そういう同じ国の中でも本当に色んな天候があるという事は、それだけ国が大きいという事なのです。北海道って言ったって広いです。北海道って言ったって本当に色んなところに空港が出来たから良いようなものなのですけど、そうで

なければ、もう街から街に出かけるのにどれだけ大変か何時間も何時間も、上川にいらした方は、何時間も何時間も車を運転していらした。皆さんはもう随分それに慣れていらっしゃるから何とないかもしれないけれど、私のような化石のような人間には、4時間とか5時間とか言われても気が遠くなる感じですけど、北海道は広いです。日本という国は大国だという事を、皆さんは認識を新たにしてほしい。日本は小さな国だといって若い人たちに刷り込む。本人も自分達でそう思っている。アメリカと比べるから、ロシアと比べるから、中国と比べるから、カナダと比べるから面積が小さいと言われるけど、とんでもないですよ。札幌青年会議所が統計取ったら、国土の広さ面積は世界61位なのです。私が知っているところでは60位なのですが、ちょっと1位違いますが、でも排他的水域が世界で6番目って事はもう知っている。つまり排他的水域という経済的な水域は世界で6番目です。6番目って事は本当に上です。世界に約何十カ国もあるのです。その中で面積とか国土からいって小さいと言われているけれど、実は60位で、排他的経済水域は6位といっている。これを自分で小さい国だと思っている程、愚かな事はありません。でも別に大きな国だって威張る事も当然ない。威張る事も当然ないけれど、小さな国だって思い込まされているのも実に奇妙な話です。ましてや政治家が、かつて「新党さきがけ」という政党が有りました。その党首、「日本は小さくともキラリと光る国」という本を書いたの。「小さくともキラリと光る国」という本。それを私は知った時思ったの、この政治家駄目だと。自分の国民に、同胞に日本は小さいのだという物の言い方をしている、事実として違うのだから。国土が上から60番目って事は、世界の中でトップ3分の1に入るわけです。トップ3分の1に入るのにどうして小国って言わなければならないのですか。小さくともキラリと光る国、この称号にふさわしいのは、シンガポールです。本当にシンガポールは小さな国なのです。でもキラリと光るのです。皆様御存じのように、今や金融の中心でもあるでしょう。投資先としてもトップ3の中に入っている。小さくともキラリと光る国って胸を張って言えるのです。せめて台湾ならばまだ小さな国といっても卑下している事にはならない。キラリと光る話に戻すと、実は台湾とほぼ同じ面積、もう少し小さいかな、ベルギー。人口も台湾の半分くらいしかない。ベルギーっていうのはEUの所在地だっていう事で威張っていますよ。私の知り合いで台湾出身、留学生としてベルギーに行ってベルギーの国籍としてベルギー人ですけど、別にあんまり威張る事もないのだけれど、何を威張るかという、皆さんの大好きなチョコレート、ゴディバにしたってノイにしたって全部ベルギーですからねって威張ります。とにかく欧州のヨーロッパの中心で、そこを通らないと大西洋に出られない、皆通るからベルギーは金持ちなのだ。皆フランス料理っていうけれど、ベルギー料理の方がよっぽど美味しい。つまりベルギーの国の人間として国を愛しているのです。国を誇りにしているのです。出身は台湾ですけど、ベルギーに留学してベルギーの大学を出て、ベルギー人であるからそれを誇りにしているのです。だから台湾ほどの面積しかない、人口も台湾の半分くらいしかない小さな国です、でも、自分で小さな国なんて絶対言いません。とにかく何でもベルギーが1番というくらいの気概で生きていますから。実は、皆さん札幌にいらっしゃると飛行機で東京まで出かけると、それ相応の時間が色々掛かって、日本を縦断するっていう事になったら1日かかるのです。私、実はある年ベルギーの友人と台湾からオランダのアムステルダムに飛んだお話ですが、台湾のチャイナエアラインっていうのは台湾からバンコク経由でアムステルダムのノースリポート空港に行く便しかファーストクラスが無いのです。ヨーロッパに行くときに大体オランダ経由が多いのですけれど、オランダまではアムステルダムまではファーストクラスが有りますから、大体それに乗るのです。着いて、向こうの現地時間で10時、特急に乗ってベルギーの首都ブリュッセルまで行くと、お昼に色んなもの買い込んで、特急に乗ってブリュッセルまで来ました。ブリュッセルから彼女が手配した車に乗って、ベルギーとフランスの国境を越えて、それでパリに入って夕方にはパリの友人のところで夕食を食べた。つまり、朝の10時にオランダについて、ベルギーを通してフランスに入って、夕方には3つの国を経由しているのです。ベルギー、オランダ、フランスという風に。3つの国ですよ。ヨーロッパっていうのはそんなものなのです。小さな国々がいっぱいあって、どこに行くにも人またぎに行けばそれで済むものなのです。それは、ヨーロッパの国の人達が自分達の国を小さな国だって言っているのを聞いた事がありますか。誰もそんな事言わないです。自分の国が一番だとみんなが思っている。客観的情勢がどうであろうが、ヨーロッパでどうであろうが、世界の中で自分の国の国土が何番目であろうが、自分の国が一番だと思っているのです。自分の国が大好きなのです。自分の国を愛しているのです。私これが一番正常だと思う。自分がここに生まれてここに育った、この国に育った、愛している、大好き、誇りに思っている、自信を持っている、これが人間として一番正常だと私は思っています。先程のアンケート、横からチラチラ見て100%見られたわけじゃないのですが、自分の日本人としての誇りというか、好きでも何でもないみたいな関心を持っていない、興味を持っていないという人が20何%もあるという数字が、がっかりします、本当に、今の日本人というのは。だから、日本は衰退していくのです。自分の国を愛さない人間がこれだけたくさんいる国民というのは、衰退して当たり前なのです。その国は落ちぶれていって当たり前です。それを考えてみた事ありますか。皆さんは札幌の人間です。札幌の人間が札幌を愛してなければ、さっさと何処へでも引っ越せばいいんですよ、実は。不満タラタラで住んでいるというのは、精神衛生上良くない。ハッピーになれない。もし、家庭を持っていたら、子どもたちは健全に育たない。一つの家庭で、もし子ども達に、父親が母親の悪口を言い、母親が父親の悪口を言って子

どもを育てたら、子どもはまともに育つと思いますか。私がいつも言うのは、最悪の状況というのは、母親が子どもに「お父さんのようになっちゃ駄目よ」と言う、こういう教育、間違い無く子どもは不幸になります。人間ですから、誰にだって欠点はあります。完璧な人間なんてどこにも存在しないのです。でも、その中で皆一生懸命生きています。結婚して、子どもを産んで育てて、それだけでも人間として一人前なのです、貢献をしているのです。さらに、働いて家族を支えて、または、子どもの為にこの家庭を支えていくために努力をしている母親、こちらは比較的交通事情も良いかもしれないけど、東京だったら大変ですよ。ラッシュアワーにぶつかったらどんなに大変か、そのラッシュアワーで毎日出たり入ったり出たり入ったりしているだけで、どれだけ大変な思いをしているか、外に出て働いている人は。それだけでも本当に大変な営みであるわけです。それを、よくやっている、家族の為に皆の為に、お父さん、またはお母さん、こんなに一生懸命やっているという事で、まずアプリシエイト（appreciate）しなければならない。アプリシエイトするという事は、感謝する認める評価する、諸々のニュアンスが全部含まれている。まずはアプリシエイトする。生きていくという事の中で、自分がここに存在している事だけで、まずはアプリシエイトする。肯定する、認める、そしてそれからどういう風に一步步歩むかという事を、大人が背中で子どもに教えずにはいけない。それを、まずは粗探してから初めて、まずは自分の国を小さい国だと思い込んで、悪い国だと思っている、沢山悪い事をした国だと思っている、その出発点が私は間違いだと思います。先程、十数分のなかで、札幌JCの若者達が一生懸命考えて、あのプレゼンテーションビデオを作りました。歴史というものは光と影が有るのです。アジアの中で、最初に近代化していった、アジアの中で先進国になった日本が、どれだけの努力とどれだけの苦勞とどれだけの涙と汗と血を流したか。これに対して、後から生まれた人がとやかく言うのは簡単です。先人が、血を流し、涙を流し、汗を流して、重ねてきた苦勞に対して、後の人が、自分の今の時代の感覚で、とやかく言うのは簡単です。でもそれは間違っています。時代にはその時代精神というものがある。その中で精一杯生きてきた人たちの苦勞を、私達はアプリシエイトしなければいけない。歴史というのはそういうものなのです。そして、その時代で常に光と影が有るのだったという事、その時代その時代に精一杯生きてきた人が、ひょっとしたら後からみれば過ちを犯したかもしれない、戦争を起こしたかもしれない。でもそうやって、皆が一生懸命生きてきた中で今の日本が有るのだったという事、そうやって手渡されてきた日本を、我々が少しずつ駄目にしていっているのだった、私は思っています。先程の短い時間の中で、日本がそれこそ黒船の襲来、そして国を開かざるを得なかった、開かれている中で世界の国々とどう付き合っていくかという問題、でもそのなかでも、この地域、このアジアの中で、実は日本が一番まとまった、そして力を持った国であるという事、それがアメリカから敵視されて、仮想敵国とみなされて、どんどん追い込まれていったという事、それであの、有る意味では無謀な戦争が始まったわけですが、大敗を喫した日本が、これだけの復興を成し遂げて、これだけの国力をつけていって、実は皆さん、G7の一国として、G8の一国としてこの地域で初めて、唯一参加した国なのです。そういう事を何故言わない、大人は何故言わない、教師は何故言わない、政治家は何故言わない。あれだけ大変な戦争、そして敗戦、焦土と化した日本、いち早く立ち上がり、そしてG7の一国となった、メンバーとなった、この地域から唯一G7のメンバーとなったのは日本なのです。それだけの底力、それだけの働きや努力、そういうものをどうして評価しない、どうして誇りにしない、どうして自信を持たない、何故それを若い人達に説かない。まず自分がそれをきっちり認識してアプリシエイトして、背中で何故若い人達にそれを説かない。今日、日本人は、なでしこジャパンが世界一になったという事で、本当に皆が拍手喝さい大喜び、キャプテンの澤さんが「私の背中を見ろ。私の背中を見て頑張れ」「ゲームの中で大変な事が起こったとき、その時に私の背中を見ろ」と、立派なリーダーだと思います。リーダーと言うのは斯くあるべきなのです。何もサッカーだけの問題だけじゃないのです。一つ一つの家族、一軒一軒の家、一つ一つの会社・組織・自治体、そして北海道、日本。それぞれのレベルでリーダーが居るわけです。親は大人として保護する側として、自分の子どもをどうすれば幸せに出来るかを考える。私の背中を見ろと、親の背中を見て育つ子どもはどのような背中か、先ほども言いましたが、『お父さんのようになっちゃだめだよ』の様な最悪のケースでも、子どもを育てているのであれば、子どもは不幸になります。学校の教師が自信を持って、誇りを持って子どもたちに日本人として幸せになる様に教育をしていない。ひどかった北海道の教組。この悪名高い北海道の中でよく、皆さんこんなに真面目な人が集まりました。今日お集まりいただいた方全員真面目な方だと思います。札幌青年会議所の若者達が、こんなに立派なプレゼンテーションをやり、又お誘いに応じていらしていただいた方、金美齡の話を聞きたいなんて思うのは皆さん立派な方達です。日本人としての誇りを説く話を聞きたい方もたくさんいらっしゃいます。アンケート用紙にも記載ありました。はっきりものを言えば、前向きなポジティブな意見は大体50%位だと思います。私の話を聞きたい方もかなり多いと思いますけど、そんな事を一々気にしていたらコメンテーター・評論家などやってはダメなのです。皆に好かれたくて評論家になった人間は、結局何を言いたいのか考えているのかわからない。はっきり物事をいう人間は敵が半分なら味方も半分です。これだけ価値観が多様化しているこの世の中で皆と同じとは行かない。はっきりイエスとノーを言える人間は絶対に100%皆を幸せにする事はできないが、間違いなく私は自信と誇りを持っています。自分の国を愛さない人間は幸せにはなりません。自分の親、家族を愛さない子どもはハッピーにはなりません。自

分が今暮らしているこの札幌の街を愛していない人間は欲求不満の塊です。勿論人間ですから色々な親、又は土地、場所、組織、国も100%全てがOKとはいきません。なぜならば人間がそうではないから、この国を造っているのは一人一人の日本人なのです。国が自分と関係なくそこに存在しているかと思っていればそれは大間違いです。日本が私で、私が日本なのです。そのように思わない人が大勢居るとその国は衰退する。当たり前です。日本ってそんなにダメな国ですか。日本が嫌いだと言っている人、たぶんこの会場にはいらっしゃらないと思います。実際、今私は札幌に居ます、北海道の大地は実に素晴らしい。冬は寒いけど、それでも大好きです。皆さん北海道の雪まつり、雪が実は観光資源になるのだという事。物事なんでも発想の転換なのです。寒い雪に閉ざされて大変でしょうが、でも北海道の雪まつりを観にどれだけの人が東南アジア、台湾からとチャーター便でやってくるでしょう。豊かな資源を北海道は持っている。それから北海道と聞いて最初に連想する事はなんですか。実は、美味しいという事、美味しい物沢山あります。私食いしん坊ですから食べる事が大好きなのです。それともう一つ、実は北海道の人は気前がいい。別に物を貰おうとしてお世辞を言っている訳ではありません。以前私が北海道である団体総会で講演をした後、懇親会の時の話ですが、各地方地域から集まった方々、自分が誇る地域の自慢の物産、自分達が作っているものを持ち寄り、くじ引きで当たった人がもって帰っていました。しかしその品物がものすごい量で沢山となっていました、私はくじ運が悪いせいか空くじもないのに当たったのは日高昆布でした。品物の中に鮭も山ほどあり、『金先生是非鮭一本持って行ってくれ』と私に下さいました。先週熊本で会社の60周年記念式典の公演後のパーティーも大盤振る舞いで、またくじ引きがあり何も私に当たりませんでした。商品も豪華で、10位和牛・11位上海旅行券があり、5位に山形温泉ペアチケットが当たった方がいたのですが、その番号札を持っている方は帰ってしまったとの事。しかし、司会の方は臨機応変に『60周年記念ですから60番の番号札の方に差し上げるのはどうでしょう』と切り出しました。そして私の隣の方が当たりました。10位の和牛も番号札を持っている方が帰られたとの事で、司会の方が『先ほど和牛の話をしていた金先生に差し上げるのはどうでしょう』と言いだしたのです。私が一番ほしかったのは実は和牛だったので喜んでいただきました。そこで、熊本で一番何がおいしいのか特産物はと聞いてみると、必ず皆さんが言う事は馬刺しでその次に辛子レンコンでした。生まれ故郷を愛しているのはわかりますが、日本は世界で一番おいしいと言われている牛肉、海も近いのですから海産物などはないのですか。教えて下さいと皆さんにアドバイスしました。北海道もそうです。アドバイスしなくてもどれだけおいしい物、魅力を感じ台湾人が北海道好きであるかを皆さんもご存知ですよね。おそらく夏も冬も観光客の中で一番多いのは台湾人だと思います。理由としては、台湾で絶対見る事のできない雪、地元でもあるのに北海道のカニが食べたいとの事。人間とは不思議なもので、地元にあるカニより北海道にあるカニが一番美味しいと思っている。又、北と南の海産物はまるっきり違いますので、皆さんは自信を持って我が北海道にはこれだけ素晴らしいものがあります、私達は精魂込めておいしい物作っていると誇りを持って下さい。良くいただく、「じゃがいも」これも又どんどん品種改良され益々美味しくなっていますよ。かぼちゃもそうです。そしてアスパラ、この前、愛知県の友人が北海道でアスパラを栽培しているから旬になったら届けますとの事で送ってくれました。日本国中だけでなく外国にも轟いている北海道の素晴らしい農産物、海産物、皆さん色んなものを誇りにして発信しているわけでしょう、また、しなければならないのです。それと同じ事を何故、国の単位になったらできないのか、国というものは繋がっているものです、国だけ切り離されて別にあるわけではない。個人があって、私が居なければ皆さんここにいらっしゃらないです。感知しない訳だから。私がここに立っているから皆さんがお座りになって私の話を聞いてくださっている。私にとっては私が主人公です。間違いなく自分はとっても大切です。でも今日、今まで私がここまでやってきてお話が出来る事、これは色々な人達の協力なしでは出来ない。まずは、札幌青年会議所の若者が金美齡を呼びたいと思ってくれなければならない。その前に青年会議所の多くの若者たちと繋がりが有るからここへと繋がってくるのです。そして飛行機が飛ばなければ二進も三進もいかない。帰りは自分の家に帰れば良いだけなので少々渋滞して遅くなくてもタクシーで帰ればいい話ですが、飛行機は人を待たせるが人を待つてはくれない。新千歳空港に着くと札幌青年会議所の方たちが出迎え、ましてや会場にいる皆さんはここへ来ようと思ひ色々用意がある事でしょう。その人たちの思いを万が一私が飛行機に乗れなかった、遅れたなど一大事でもありますし無責任すぎる事です。そうならない様に色々考えながら札幌へ行く道のりは、車ですと渋滞に巻き込まれ万が一飛行機に間に合わないかもしれないので地下鉄、電車、モノレールで移動しました。この乗り物も何をするにでもそうですが、どれだけの人と努力で成り立っているか、決してそれを忘れてはいけません。そして自分の息子や娘、孫、周りの人たち若者、仲間、それを時々思い出した様に伝えて理解してもらい、今日、札幌青年会議所の方々がこれだけのプレゼンテーションやその背景にある思いそしてこの会合に至った一つ一つの準備プロセスどれほどのものか。お集まりになっている方々、是非アプリシエイトしてこの若者たちが地元のために、お国のために何ができるのかを一生懸命考えて頑張っている事、どうぞエールを送って下さい。そして、出来る範囲で必要なときには協力してあげて下さい。お互いの協力の上に色々な事が成り立つのです。自分が一人で生きているわけではない、ロビンソンクルーソーだってフライデーという仲間が出来て本当に喜ぶのです。ましてや私達近代社会に住んでいて何をするにしても沢山の誰かの協力のおかげで一日成り立っているわけです。

まず大人がしっかりと噛みしめて背中で子ども達に知らしめる事によって日本は間違いなく輝きを取り戻すと私は思っております。時々週末息子に羽田空港まで送ってもらう事があります。滅多にないのですが互いに都合が合えば孫を連れてくるのです。嫁に安らぎという自分の時間を与えるために、何しろ男の子サル3匹ですから。私はレインボーブリッジを通過するときに孫達に言うのです。「みてごらん、素敵な眺めでしょう」、この橋を造ってくれた人達がどれだけの大変な仕事をしたのかわかるとお話をします。また、「日本の建設事業はすばらしいレベルなの」とも話します。北海道と本州がつながった海底トンネルも同じで、どれだけの汗と涙と血の結晶なのか。子どもたちに何を教えるか、ここを通っている時その場で言って教える。分からない事が多いかもしれないが大人が何か見たついでに色んな事を教える事が大切です。又、アフリカの子どもたちをみてごらんさい、食べるものなく水を汲みに行くのに半日かかって学校にも行けない、あなたたちは幸せなのだ、そういう事の一日一日の積み重ねていく子どもは間違いなく真面目に育ちます。自分がここで生きていて便利な思いをして美味しいものを食べて車に乗って出かけていく、そのような生活が毎日安全に豊かに送っていきけるのは誰のおかげなのだ。まずは両親のおかげ、地域の人たち、学校の先生そして広くは全ての事を全部一人ひとりの人が作り上げていったものなのだと基本的に分かれば、又、伝われば間違いなく、自分が自分の両足で歩き大人になり一人前になったら、なにかしら貢献しなければいけないと思う様になる。日本人が国際的なアンケートで自分の国を愛していない、誇り自信を持っていない、希望、夢もないという若者の中で数値が世界一悪い。それはなぜか、これだけ豊かで安全でおいしいものが沢山あって緑が美しく水が清らかで暮らしやすいのにもかかわらず数値が低いのか。教育が悪いのです。北海道教組が元凶だと私は思っています。そういうような教育を子どもにして子どもが幸せになると思ったら大間違いです。皆さん日本は世界一の長寿国家なのです。いろいろ衰退していても、なぜなら世界一暮らしやすい住みやすい国だからです。実は私、帯広出身の中川昭一さんにとっても仲良しでした。若くして農林水産大臣、ある会合に出たら向こうから挨拶に来てくれた。その後、テレビ番組で隣り合わせに座った。食料の自給率の話になった。日本は40%しか自給率がないという話の中で、中川さんは「いや～、帯広は200%です」、私「そうよね。北海道大好きよ」ちょっと本当の事を言った「食料に困ったら何か送ってくれないかしら」と話しました。帯広の中川さんの講演会に呼ばれて一度行った事があります。見渡す限り平らなエリア、講演会の会長さんが「ここは何もないところですから」と言っていたが、違いますよと言った。この見渡す限りのこのエリアというのは台湾人にとっては素晴らしい魅力なのです。台湾には平地が少ないのです。だから見渡す限り地平線まで平らであるという事、これが実は財産、自然なのです。台湾人は喜ぶ、しかもこんなに食べ物が美味しい。素晴らしいところですよと言った事があります。そういう風に、今自分が持っている物は何なのか、自分が持っているカードは何なのか。それを積極的に発信しなくてはならない。雪でさえ財産なのだから、実は暖かい国の台湾から何が楽しくて真冬の北海道へ行くのと聞いた事があります。台湾の人はそんな服装も持っていない。防寒具等は普段の生活では全く持っていないのです。それなのにとにかく防寒具を着込んで行く訳です。実は正直にお話しますと雪祭りを見た事がないのです。誰も呼んでくれないから。チャーター機で台湾から防寒具を着込んで行く人に「あなた達どうしてそんなに寒い思いまでして台湾からやって来るの」と聞くと「雪が見たい」と答えるのです。毎年台湾で家族と一緒に正月を過ごす。娘が商店街で子どもたちにスキー用の服を買ってきた。台湾でスキー用の服を買うなんてどういう事、しかもこっちで売っているのとびっくりしたら、今では台湾でも売っていて、しかも日本より安いとの事。皆さんわからないでしょう。台湾にある世界で当時1番高いビル（現在は2位か3位になった）には色々な店が入っていてそこへ見に行ってみるとスキーをしたり、雪を見に行ったりする為に全身装備できる専門店がある。私は信じられない。娘はそれを買って来た。つまり、皆さんが持っているカードを大切にしなければならない。日本全体で自分がどういうカードを持っているかという事を真剣に考えて、それを誇りにして、自信を持って世界に発信していく。今回の日本の国難、地震、津波、原発事故、この非常に大変な事が起こったとき、人間というのは一番大変なときに傍で立ってくれる人、一番大変なときに手を差し延べてくれる人、これが本当の友人なのです。国も同じです。この時、手を差し延べてくれるべきはアメリカの友達。それからあの非常に小さな国の台湾、人口2300万人年収は日本の3分の1～半分、そういう国から173億円の義捐金が寄せられた。私はずっと言っていた。日本と台湾は仲良くしなければなりません。台湾人の大多数が日本の事が好きです。中国から来る人たちはもう理屈抜きで反日ですから。そういう人たちは少数です。そういう台湾を大切にしなければならないという事は私は日本で言い続けてきた。中々そういう話は届かない。でも今回はわかって下さった人たちがたくさんいると思っています。なぜなのか、なぜ台湾は日本の植民地だったのに日本が好きなのか。と良く聞かれるのです。台湾人が無条件に、自然に日本を嫌っていると思込んでいる人がいっぱいいる、違う、昔から台湾にいる人、つまり戦前から台湾に住んでいた人、台湾人は1895年から1945年まで日本の50年の統治、あの時代を知っている台湾人。植民地統治が嬉しい訳がないのです。でも世界中が、特にヨーロッパの先進国は植民地を求めてアジアにやってきて東南アジアを全部征服したのではないですか。日本はむしろ遅れてきた少年です。だからと言ってそれが正当化される訳では決してないけれど、先ほども言いました通り、物事・歴史には光と影があるのです。日本の歴史だけ例外という訳にはいかない。だけど、そう意味において歴史の中で

の光と影と言ったら世界中どの国でもそうです。昨日独立したような国であれば、まだまっさらな歴史でしょうけれども、アメリカみたいにたった2百何十年しかないという短い歴史を持った国でも、すべて光と影に満ち満ちているのではないですか。それが人間であり、組織であり、国なのです。国も組織も人間で形成されるからには、常に光と影、一長一短があるのです。その中で我々は少しでも努力をして影を少なくして光を増やしていく事が賢明な生き方なのです。では、台湾統治はどうだったのか。そこにももちろん光と影があります。間違いなく植民地として差別された面もあります。でも実は台湾統治の50年、光と影を足し合わせると光が残ったから台湾人は日本が好きなのです。大変簡単な事、単純な事なのです。なぜ好きなのか。あの50年、日本が残していったものをアプリシエイトしているからなのです。何を残して言ったのか。目に見えるもの、目に見えないもの。目に見えるものは、数々のインフラ、数々の建設、鉄道であったり、病院であったり、学校であったり、生産施設であったり、そうした目に見えるたくさんのものを日本人が50年間作り上げていってくれた。最近日本でも知られるようになった八田與一（はったよいち）さん。金沢出身。当時世界一のダムを台湾に造った人。目に見えるもの、多くのものを日本人が血と汗と涙を流し造り上げていった。もちろん植民地統治としての建設かもしれないけれど、それは間違いなく台湾を近代化させた。それも50年、日本と歴史を共にする事によって、日本と一緒に近代化していった。だから今の台湾があるのです。では、目に見えないもの。そこで働いていた日本人が一挙一動に残して言った、見せていった日本人の生き方、日本人の働き方、日本人の考え方、日本人の献身的な仕事を愛する姿。それなのです。日本人が引き揚げた後、中国人が入ってきました。これが滅茶苦茶だった。そこで台湾の人は自然発生的に二つの言葉を作った。一つは「中国式」。中国式というと腐敗、汚職、エゴ、すべて負の、マイナスの面。もう一つは日本精神。日本人が残していった日本人の生きる姿、働く姿、考え方を総称して「日本精神」（台湾語読みでリップンチェンシン）。日本では死語です。日本では誰も言いません。でも台湾では今でも残っている。特に当時日本語を勉強した李登輝さんを始め、多くのインテリ達、インテリではなくても、当時あの日本人たちのメンタリティー、働き振り、考え方、それを知っている人は間違いなく素晴らしいものだと思います。日本精神というのはすべてポジティブなのです。約束を守る、向上心、研究熱心、和を尊ぶ、名を重んじる、暖簾を大切にする、公の為に自分を捧げる事をためらわない。こういうような行いを皆さんの先代、先々代の人たちが多く台湾で残していった。それを台湾人は知っているから。その歴史を大切にしているから。だから今回の台湾の人たちの熱い想いに繋がったのです。昨日今日地震が起こったから、アニメをたくさん見ているから、北海道が好きだからそれだけではあの金額の説明はできません。それは日本人が忘れてしまった日本人の美德。人間として大切にしていかなければならない人間としての美德。それがかつての日本人が台湾で示してくれたのです。残していってくれたのです。それは日本人が残していった目に見えない財産。今でも私は日本人にこう言っています。もし、日本を再生したいと思ったら、実は数年前から私は言っている事です、日本がもしまた国際社会で輝く、自信を持って国際社会へ出て行く、また自信を持って日本人として生きていく、その為にはメイドインジャパンを大切にしよう、メイドインジャパンに回帰せよと言っています。皆様方、まずは北海道産の農産物を地産地消でアプリシエイトして毎日美味しいものを召し上がっていると思います。これと同じ理屈なのです。わざわざ身近にあるものの輸入なんてしません。皆さん、自分の身近にこれだけの美味しいものがあって、安全な食べ物があって、素晴らしい緑があって、良い空気があって、こんな素晴らしいところで生活していて、ここを大切にしない訳がないでしょう。でも実は地方自治体が、又は一人の人間が、安全で安心して暮らしていく為には国という存在が、安心で、安全で、豊かでなくてはならないのです。「国民の生活が第一」というキャッチフレーズに惑わされて、政権交代が成り立ちました。実に疑問の残る投票行為だったと私は思っております。「個人」がもちろん自分にとっては一番大切です。自分がここに存在しなければ周りに何が存在するかわかりはしないのだから、でも自分が成り立つ為には周りの人がいなくてはいけないのです。「国民の生活が第一」というのは確かに正しいし、良いキャッチフレーズですけど、国民の生活が成り立つ為には国がしっかりしていなくてはならない。それを前回の国政選挙のときには有権者は考えなかった。又はメディアが考えさせなかった。自分も考えなかった。皆さんお解かりでしょう、被災地の方々はそれぞれの組織長が出てきて何を言うか。私たちは今一所懸命頑張って復興しようとしています。でも私たちの力だけではどうにもなりません。国が助けくれなくてはどうにもなりません。毎日毎日テレビで言っています。どこの自治体の人も出てきて等しく言っているのではないのでしょうか。こういうときに、国というものがどれほど大切かわかるのです。初めてわかった人、永遠にわからない人もまだいるようですが、私は疾の昔からわかっていました。何故なら私は国を失った事があるからです。今回の大災害が起こり、自分で立ち上がるのは大変で誰かの支援がなくてはならない。私たち全員が頑張って支援しなくてはならない。国が主体的に責任を持って支援しなくてはならないし、助けなければならぬ。いざというとき、人の力で頼りになるのは何か、自衛隊、警察、消防署です。こういうものはすべて公の存在です。その公の存在を無視してしまった民主党の面々が「自衛隊の人たち行け！突っ込め！どんな苦勞があっても行け！」と命令する資格があると思いますか。こういうときにならないとわからない。こういうときになってもわからない。そういう事では日本は間違いなく潰れます。私たちは一人で成り立っているのではない。みんなの助け合いで生きている。そしてその上にあるのは国なのです。

しかしその国も私たちと関係なくして存在している訳ではない。私が国で国が私なのです。一人ひとりの人がみんなでこの国を創り上げて行っているのです。すべての責任は一人ひとりの有権者にあります。まともな社会、まともな家庭。出発点はまともな家庭です。まともな個人、まともな家庭、まともな地域、まともな学校、まともな会社、そして私たちが愛する国。家族を愛さない人間はハッピーじゃない。自分の住んでいる土地が好きじゃない人はハッピーじゃない。この会社で働くのが嫌だと思ったらさっさと退職すれば良い。私はJET日本語学校の理事長ですが、私が皆に要求するのは、この学校を愛していない人はいないという事です。この学校を愛していない人間はそこに来る学生を愛する事もできない。日本を愛して、学生たちに「日本に来て良かった」「この学校を選んで良かった」と思ってもらえるような教育をしなさいと言っています。全員外国の学生です。日本語を勉強する為に来ている。実は今回の大災害で私が理事長をやっている学校の定員の3分の1を切りました。どれだけ大変な事なのかという事。日本にとってどれだけ大変なのかという事。直接災害を被っていない皆さん、北海道の地域、自分たちのできる事、一人ひとりのできる事はささやかな事だと思いますが、それでも自分たちのできる事をやって、災害を被った方々へ何かしっかりと支援をしないとなりません。災害に遭った方々が正常な生活を取り戻すのは非常に大変なのです。実は私、九州新幹線になるべく乗るようにしています。九州新幹線は3月12日に開通する予定だった。大変なセレモニーをみんなで予定していたのに、その一日前に大震災が起こり、すべてのセレモニーが中止となってしまった。せっかく何とか盛り上げようと企画している最中に地震が起こった。地震の翌日ですからいきなり九州新幹線はつまづいてしまった。中々快適です、皆さん、九州に行ったらぜひ乗ってみて下さい。JR九州から一銭もコミッションはもらっていませんが、私はせっかくできた九州新幹線を皆さんが喜んで利用するように勧めている。とても快適です。とても良い車輛だし、早いし、あっという間の1時間半で鹿児島中央まで行ってしまいます。でも実はその中で読んだ新聞でがっかりした事があります、とある福岡県立の学校にいったときに、その先生方が来年の修学旅行で被災地へ行って、自分の目で色々な事を確かめてもらって、少しでもその地域の消費を助けようと考えていた。他の地域では被災地への修学旅行予定の9割がキャンセルになっている。しかし、その福岡県立校の先生は一大決心をして子どもたちを連れて行こうとした。保護者会で説明をしたら反対意見が出てきた。「災害地は見世物ではありません。」屁理屈もいいところ。危ないからと言った人もいる。それは正直ですね。でも皆さん、こういう教育こそ大切なのです。被害を被っていない九州の若者たちが被災地に出かけて行って自分の目で確かめる。この自分の目で確かめるという事がどれだけ大切か。どれだけ教育上必要か。それがわかっていない。自分の子どもが可愛いから、少しでも危険な目に合わせたくないと思っている親、間違いです。出かけて行って自分の目で確かめて、自分の五感で色々な事を感じて、それで一回り大きくなる。実は私の息子が小学校5年の時、父親が北海道大学で行われた学会に出席する為に、息子を誘って札幌に行った。二人で旅行をしました。あんなに楽しい思い出は滅多になくて、北海道札幌に転勤で行っていた友人が、僕たちそろそろ東京へ帰る事になる。その前に利尻・礼文へ行こうと思っている。「あなたの息子なら置いて行ってくれば連れて行くよ」と誘ってくれた。父親は用事があるから先に帰って、息子がその友人と一緒に利尻・礼文へ行って、とにかくウニをたくさん食べたと言った。そして小学校5年の男の子がバスの停留所まで送ってもらって、新千歳空港から東京へ飛んだ。平和な時代だったので乗り合わせた兄弟と一緒に操縦室に入れてもらった。あの頃はまだそういう事ができた時代だった。とっても良い思い出をした。羽田へ到着してからも、私が「羽田まで来れば自分で帰ってこられるでしょ」と尋ねると息子は「大丈夫だよ」というので誰も迎えに行かなかった。リュックサックを背負って代々木まで帰ってきた。商店街を通ったときに「どこに行ってきたの」と聞かれ、「北海道」と答えても「嘘ばかり」と言われながら5年生の男の子が一人フラフラと帰ってきた。かわいい子には旅をさせろと言う事です。その素晴らしい思い出のお蔭で、私の息子は北海道が大好きです。もう少しで札幌にセカンドハウスを買うところでした。でもそれには5人家族で、サル(子ども)が3匹いますから、飛行機に乗って往復はあまりにも費用がかかり過ぎるとの事で買うのを諦めた。本当に北海道が大好き。それはあの時の思い出です、父親と一緒に初めて旅をして、その後一人で残っておじちゃんおばちゃんに連れて行ってもらった礼文島・利尻島。そして一人旅。新千歳空港から自分で、飛行機は絶対終点ですから間違えようがなくて良いです。懐かしい思い出です。我が家にとって北海道は懐かしい思い出がいっぱいあるところです。ですから青年会議所の札幌から来た若者に思わず、「札幌に行きたい」と言いました。これからもうんとたくさんのチャンスを作って、北海道、札幌にはいつも遊びに来たいと思っています。そして今日のこの素晴らしい機会を作ってくれた札幌青年会議所の若者たちを是非皆さんも応援してあげて下さい。若者たちが一所懸命頑張って、誇りある国、日本。自分の国を愛している。自分の地元を愛している。自分の友人家族みんなを愛して、この未来を日本の将来を背負う若者たちが頑張っております。どうぞ皆さんでできる範囲内で結構ですから応援してあげて下さい。ありがとうございました。

＜アンケートを基にした委員会からの質問＞

Q（司会）

海外の方へのアンケートの中で、日本人は家族愛がない、親を大事にしないという意見が多く出てきましたが、その事に関しまして先生からご意見をいただければと思います。

A（金先生）

家族が崩壊して行った結果の悲しい事件が昨年たくさん起こった。若い母親が子どもを置き去りにして死なせてしまった。葬儀も出さず、届けも出さなかった。それと、年取った父親の年金を当てにして、50代の息子が生活をしていて、電気料も払わないで、お父さんは熱中症で亡くなってしまった。電気料を払っていないから停電になり、冷房も入らない。昨年のあの暑い夏に。暑い中で色々な事が起こりました。家族崩壊への色んな兆し、家族崩壊の悲しい事件がたくさん起こった。だから外国から来た人が日本人は家族を大切にしないと思っても仕方がない、当たり前。教育が悪い。ある本には、家族が煩わしい、家族は裏切る、だから一人で充分、いざとなったら施設に色々なシステムがあるからそれに頼ればいいのだ。皆さん、日本の大問題である少子高齢化の問題。高齢化社会である事は先ほど申し上げました。世界一の長寿国である事、これは素晴らしい事。それはみんなの生活の努力の結果として成り立っている。しかも国民保険という素晴らしい制度、医療レベルの高さ、これらがみんな成り立っている。それなのに、私は一人で良い、家族はいらないという人がいるなら、一体誰が次の日本を背負って立つのか。家族が煩わしい、裏切るというのは間違いなのです。そりゃ一緒に生活していれば煩わしいときはあります。サル（小さい子ども）3匹いますから。裏切られる事もあるかもしれません。先般、敬老の日に娘からご飯を食べに行こうと誘ってくれたので「シメシメ・・・」と思って付いて行ったら伝票が私のところに回ってきました。これは裏切られました、本当に。。敬老の日というのは年寄りを尊敬してお金を払わせる日との事です。

確かに裏切られましたけど、一緒にご飯を食べる家族がいる事がどれだけ幸せか。昨日、私と娘と孫が3人で歩いていたのです。ちょっと酔っ払った若者が、（3世代で歩いているのを見て）「いや～いいね～すばらしいね～」と言ってくれた。だからこそ、家族を大切にするという事をこれから青年会議所の人がどんどん発信しなければいけないし、今日お出かけ下さった方もきっと家族を大切にしていらっしゃる方だと思いますので、自信を持って誇りを持って家族の素晴らしさを説くように私は一所懸命努力しています。少子高齢化、高齢化社会というのは直しようもないし、むしろめでたい事。少子化というのを若い人たちの意識を変える事で何とか改善しようではないかという事が言われています。家族は良いですよ。たまに煩わしい信頼関係であっても家族がいるというのはとっても素晴らしい事です。私が保証します。

（司会）

ありがとうございます。金先生、貴重なご講演並びにご質問にお答えいただき、誠にありがとうございました。